

行政報告

消防本部職員削減計画に伴う出張所職員配置体制の変更

消防本部の予算総額は、ここ数年9億円を越す状況にあります。構成市町自体も財政の健全化に取り組んでいる今、消防本部も行財政改革の観点から調査研究、検討を行ってきました。

その結果、住民一人当たりの消防費は県内で一番高く、予算の9割近くを占める

人件費の削減を行わなければ、今後、消防財政の負担増に耐えられないとの結論に至ったものです。

具体的に、平成21年度から平成25年度まで隔年で若宮、小竹、



平成25年には2班10人体制となる鞍手出張所

鞍手出張所の順に、1班

8名の2班16名体制（災害同時方式）から1班5名の2班10名（災害乗換方式）に変更するものです。退職者分は不補充とし、平成25年4月までに今の97名の職員を83名に減らす計画となっています。

今後も消防本部一丸となって対応するとともに、消防団の協力を得ながら住民の生命と財産を守るよう努力します。

*災害乗換方式

火災や救急の出動要請があった時、先に要請があった方に対応するもので、仮に救急出動中に火災が発生した場合、本部から消防隊が出動することになります。

*災害同時方式

現在行っている方式で、出張所から救急隊、消防隊が同時に出動する方式です。

次期電算システム更新に係る三菱電機株式会社への辞退

本町の電算システムは、昭和61年度三菱電機製を導入し、以来レベルアップを図りながら今日に至っています。

しかし、昨年12月、三菱電機から事業方針を転換し、自治体向けの事業を縮小、現在使用して

現在の三菱電機製コンピュータ機器



いるシステムの保守を平成25年度末を持って終了するという話がありました。

同様のシステムを利用している他の自治体と結束して三菱電機と協議を行いました。本年4月、正式に平成23年11月予定のシステム更新の業者選定から辞退するとの通知がありました。次期電算システムの更新の際は、三菱以外の業者、機種を選定し、データ移行や開発を行うこととなりますが、移行には時間と多額な費用が必要となります。

このため、来年度にはプロジェクトチームを立

ち上げ、対策を講じるよう考えていますが、移行作業の状況については議会に報告し、協議をしながら円滑に作業を進めることにしています。

町立総合プールの一部運用休止

鞍手総合プール（中央公民館敷地内）は昭和61年3月開設されたもので、今年で22年が経過し、老朽化が進んでいます。今回休止を考慮してい

る25メートル競泳プールは、平成17年度から漏水が確認されており、その水量は毎年増加しています。漏水の原因は循環パイプの破損と思われるのですが、地中に埋設されているため箇所が特定できず、修理が困難な状況です。また、プールサイドの亀裂も拡大しており、利用者の事故も懸念

されます。

遊泳プール2つで運営

そこで、本年度は競泳プールの運用を休止し、遊泳プール2つで運用することにしました。競泳プールは水を抜き、柵で囲むなど安全対策を講じ、事故防止をはかります。

来年度以降につきましては、全面改修が必要になることも考えられますので、経費や利用状況などを十分精査、把握しながら検討していきたいと思えます。



運用が休止される競泳プール（中央公民館敷地内）